



第34回会員交流懇親・誕生会



サンパウロ新聞上間記者提供

4月22日(日) 4ヵ月に一回開催される第34回会員交流懇親・誕生会が行われた。

先亡者への黙祷後、千田会長から図書室の整備や、会館フロアの床張替で明るくなった事。県人会は利用者の視点で整理や改装された等が報告された。

続いて、増田寛也知事からの賀詞の祝い、阿部安忠さん(宮守村)、塚田ヨシさん(石鳥谷町)へ会長から伝達があった。阿部さんは「皆さんの誕生会と共に祝って頂き、大変嬉しい皆さんに感謝したい」と、謝辞を述べた。

塚田修吾さんの音頭で乾杯。会員の持ち寄り料理が並び婦人部がお雑煮を振る舞い、賑やかな団欒の一時となった。

青年部による、豪華な賞品が当たるビンゴが行われた後、1月から4月生まれの誕生者は舞台上がり、記念のケーキで誕生を祝い、県人会より気持ちだけの記念品が贈られた。

食事後、県人会初の試みとして映画「男はつらいよ」の第11作目が上映され、好評だった。

県人会

日本語教室を始める

岩手県人会では、4月14日午後2時から日本語教室を、多田副会長を講師とし6人の生徒で授業を開始した。

これは日本語教室創立案をもっていた多田マウロ副会長が昨年県人会幹部と同行。県国際課の県人会担当、赤坂高生主査に日本語の教本があればと依頼していたもの。

帰国後赤坂主査から「やさしい日本語教書(初級、中級)」音声版も含め8冊が12月に届いた。

授業を前に内容を話し、ひらがな、カタカナ、読み書きの基本練習など、本講座で何を学びたいか生徒との意見交換を行った。

その中で「ブラジル人であるが、顔や姿は日本人、日本移民の子弟なのに日本語が話せない、分からないのはおかしいと自身の日本語に対する思いを述べ、皆さんが日本語で会話しようと務め



授業風景(サンパウロ新聞上間記者提供)

れば、ご両親や祖父母もきっと喜んでくれる」と語りかけた。

多田講師は、1985年県費研修生として電子技術を学び、技師としてテレフォニカに勤務の傍ら県人会活動に積極的に参加し、指導力を増している。

お知らせ

- 「第18回いわて餅まつり」は、来る6月17日(日)午前11時から行われます。
例年通り、白餅を販売。「食べ放題」(あんこ、きなこ、納豆、醤油、大根味など)、他のおつまみなども用意します。餅米生産者でイグアッペの高橋義明氏の話では、今年の餅米の出来は上々ですとの事です。
「前売り」白餅や食べ放題の前売りを行っております。希望者は県人会までご予約下さい。
☆ 白餅1袋(500g) R \$6.50 当日はR \$7.00
☆ 食べ放題 R \$9.00 当日券 R \$10.00
- 「第10回フェスティバル ド ジャポン(日本まつり)」は、7月20日(金)21日(土)22日(日)と、例年同様イミグランテ展示会場で行われます。テーマは「日本の美」岩手県人会は21日、22日と参加する予定です。
- 「留学生・研修生募集」県人会では、2008年度県費留学生・研修生を募集しております。希望者は早めに県人会へ申し込み下さい。

創立50周年まで13ヶ月

2008年6月には日本移民100周年を迎えます。我が岩手県人会はこの記念すべき節目の年の、6月15日(日)に創立50周年の記念式典を開催致します。

主な予定は、

- | | |
|-----------|--------------------|
| 6月 14日(土) | 慶祝団との懇親歓迎会 |
| 15日(日) | 創立50周年式典(会場は文協講堂) |
| 16日(月) | 駐伯第3代杉村濤公使墓碑の改修披露式 |
| 18日(水) | 日本移民100周年(日本移民の日) |
| 21日(土) | サンパウロの100周年記念式典参 |

カウンタダウン

- 1 1階サロンの片づけボランティア10人が手伝う。
- 2 業者のフロア張替え工事終わる。
- ☆ 盛岡の吉田恭子さんより「賛助会員の会」役員会の報告あり。賛助会員の2名退会、総会の日程は6月9日(留研生の歓迎会も行う)、県人会50周年式典は会主催で訪問など。
- 4 多田副会長・千田にて床面保存液を塗る。
- ☆ 県国際課の熊谷主事より在留資格認定書を当会宛送付と連絡有。稲葉前課長、赤坂主査の移動の知らせ。
- 9 国際交流協会坂本進事務次長より賛助会費納入状況の連絡あり。
- 11 8日の知事選に当選した達増拓也氏への祝文を県庁に依頼する。
- 12 県国際課の佐々木健新課長さんより挨拶状あり。
- 14 多田副会長「日本語教室」を始める。生徒6名あり。
- ☆ 4月度役員会開催。議題は各種報告(知事選結果、床張替、図書室、看板)、会員交流懇親会、50周年式典、日本語教室などについて。
- 14 県国際課より県人会長へのお願い「いわて親善大使委嘱同意書」を国際課へ発信。
- 16 藤村副会長は県人会図書を一冊ずつパソコンに入力作業を始める。
- 18 今期で退任する増田寛也知事へ礼状を発信。
- 19 海外県人会概況調査書を県へ発信。
- ☆ サンパウロ新聞に岩手県人会「母県の協力を得て日本語教室開く」と記事あり。

- ☆ 賛助会員増田稲子さんより漆器を贈りたい旨のFAX。
- ☆ 前青年部長田中エレナさんの父死去の報あり。弔文を発信。
- ☆ 会報149号を国内へ発送。
- 20 新聞記事を関係者へ配信する。
- 22 第34回会員交流懇親誕生会開催。「シネマ」上映。
- ☆ 前国際課稲葉比呂子課長より日本語教室開設のお祝いメール受信。現在は県南広域振興局経営企画部長。
- ☆ 県国際交流協会の坂本氏より県の市町村長名、住所一覧を受信。
- 23 県より定期刊行物(いわてグラフ、イパング、農業普及、農業便利帳)などの送付あり。
- 24 留学生の訪日日程を国際課の熊谷主事に発信。
- ☆ 赤坂高生前主査より、日本語教室開設へのエール受信。現在は県医療局病院改革室に勤務。
- ☆ 東北ブロック青年部は運動会の会合を当会でやる。
- 27 県交流協会坂本氏より留学生の出迎えについて受信。
- 28 サンパウロ新聞は「会員交流懇親誕生会」を4ヵ月に1度開催と記事掲載。
- 30 関係者へ新聞記事を配信
- ☆ 県関係者へ畑勝喜氏と菊地義治氏の岩手訪問日程などを知らせる

☆ 県人会図書利用数：2月 - 513冊、3月 - 721冊、4月 - 739冊

会費納入者名(敬称略・4月)

前川鮎之助、服部葉子、佐々木章良、菅原英一、菊地義治、千田みやこ、千葉キク、田口ヤス、山田幸孝、黒沢フジ、高橋孝夫、崎田信幸アフォンソ(07-08)、毛利シャビエル・フランシスコ、本田ウメ、大森仁太郎、平野マリア、平野ジョゼ・カルロス、平野とみお、虎岩昭子、岩上至カルロス、小田久馬、山口セシリア、長野長勇、国成ローザ、国成ジュベニルソン、児玉通義ミルトン、二瓶隆一、佐藤キミ、(累計111名)

☆ 先号の高橋万上エ門は高橋万右衛門と訂正

寄付・寄贈(4月)

佐々木 憲輔様 お茶菓子
図書利用者多数 お茶菓子
図書寄贈者

尾山峰雄様 20冊
稗貫慶明様 5冊
佐々木寛一様 1冊
石井紅夫様 6冊
宮下茂様 4冊
高坂房悦様 1冊
宮城義晴様 6冊
芝美喜子様 4冊
河村武雄様 363冊
毛利フランシスコ様 200冊余

いわて親善大使

岩手県NPO国際課では、各岩手県人会長へ「いわて親善大使」の委嘱をお願いしたいとの要請がありました。

「親善大使」は知事が委嘱し、国外において本県の紹介に努めると共に、諸外国との国際交流の推進のために県及び県民に各種アドバイスを行うなど、世界と本県の交流の架け橋となる活動を行うこと。

また、県や市町村の国際化推進事業に可能な限り協力して欲しいなどからなっております。

ブラジル県人会では早速受託を承認。立派な委嘱状の盾と国際交流バッジが送られてきました。



「光り輝く4年間に」 達増 (たっそ) 新知事



達増知事

達増拓也新知事は5月1日、県庁に初登庁した。午前10時からの就任式で、達増知事は「光り輝く4年間であるよう、知事として全力を尽くしたい」と抱負を述べた。

県財政の再建や、岩手競馬の経営問題など県政課題が山積するなか、「達増県政」が本格的に始動した。

達増知事は盛岡市本町通の自宅を出、「普通に自然体でいきます」と公用車に乗り込んだ。

9時半に県庁に到着。約50人の職員が拍手で出迎える中、花束を贈られた達増知事は笑顔で県庁に入った。

就任式で、約200人の総括課長以上の職員らに、知事は「県民所得は2001年に下落

して以来、回復していない」と指摘、「県民の暮らしや仕事を守る事が知事の任務で、力を合わせてやっていきたい」と訴えた。

さらに「今までの人生は今日からの4年間であった、その後の人生は4年間の結果としてあるというように、人生のすべてをかける4年間で皆さんと共有したい。岩手県にとって県民にとって決定的な4年になる」と述べた。

達増知事は盛岡市出身。外務省を経て1996年衆議院岩手一区で初当選し4期務めた。



花束を手に初登庁する知事

増田知事の離任式



集まった職員や市民に挨拶する増田知

4月27日、増田寛也知事は県庁前広場で行われた離任式に出席し「皆さんに支えられた12年間だった」また「ゆるがず、たじろかず、正々堂々と。県民の豊かで幸せな生活を守るため、これからも困難に立ち向かって欲しい」と職員に対し感謝と別れの言葉を述べた後、贈られた花束を抱え集まった皆さんに最後の挨拶をした。

☆県人会より 増田知事は県人会40周年、45周年など3回来伯、県人を激励し親交を図った。お疲れさまでした。

2006年

岩手訪問日誌

記 千田 曠曉

岩手山

9

9日(日) 朝食を済ませると、ホテル前で女将と一緒に記念写真に収まり、功平さんの自宅へ向かう道すがら16年前「ふるさと創生事業」で、当時青年部長であった巖岩毅君と視察した巖美溪へ案内して頂いた。

巖美溪は、栗駒山を源に磐井川が巨岩を侵蝕し、甌穴・滝・深窟などある。前回泊まった温泉ホテル「溪泉閣」では、川のせせらぎを聞きながら眠りに誘われた記憶がある。当時事業の担当者であった吉田恭子さんに案内して頂いた巖美溪は、各地からの観光客で賑わい、小高い対岸から客の注文で籠に入れた「串だんごとお茶」がロープを伝い降りてくる。

功平さん家族と一緒に写真に収まる。



巖美溪にて

ついでに私達が宿泊した思い出の「溪泉閣」を写真に収めた。帰国後巖岩君に写真を見せ懐く思い出を語りあった。

功平さんの自宅に案内され休息、氏から県人会へ金一封を受けて盛岡の吉田宅へ。

遠野市でブラジル・ジャパン社を営んでいる、佐々木栄洋氏(奥さんはパラナ州マリガ出身)が、吉田宅へ家族連れで訪れる。氏は日伯両語の翻訳や通訳、サッカーなどの留学コンサルティング、輸出入販売などを行っていると言う。今後県人会との情報交換が出来ればとの話であった。(賛助会に入会)

今年2月佐々木さんからメールがあり、「県庁から資料やアドバイスを頂き100周年企画のヒアリングを行っている。ブラジル移民を広く岩手県民に伝えたい事と、ブラジルの3世4世にもさらに、岩手の最新情報をポルトガル語で情報発信するサイトを近々公開します。岩手に関連のある若い世代のブラジルの人達が岩手に興味を持てるような内容にしたいと考えている」との便りがあった。



佐々木さん家族と一緒に

岩手大学での同窓生でサンパウロの工藤氏へのお土産を預けに来ていた一戸氏に送って頂き、藤村勝巳氏宅へお別れの挨拶に。親族など揃っていてレストラン熊さんで私達4名の送別会となる。



送別会

10日(月) 朝6時、藤村さんの次兄秋夫氏の自宅がある静岡県伊東市まで700キロ余。ハイウェイは山々や町、周辺の田圃は稲が連なり日本の風景であるが、同じようでちょっと退屈。宮城県・福島県など通過し首都圏へ。東京では一時渋滞などを体験。

神奈川県の伊豆半島に入る。半島は山また山が海岸際まで覆いかぶさっているようで、平地が少なく道路は山際を削って出来

たようでクネクネとした道の連続で、砂浜のある海岸は少ないようであった。

歌や映画「金色夜叉」で有名な熱海を通過し、伊豆高原のある伊東市へ午後4時到着。10時間の長旅であった。

近くには特別目立った「大室山」がある。天城火山系の一つで、すり鉢を伏せたようではなだらかな山容。山全体が草に覆われ、山頂に直径300m深さ70mの火口がある。頂上からは大島や伊豆七島、富士山、箱根、天城の山々が見えるそうである。

2月には若草を育てるため山焼きがある。麓にはサボテンや桜の里があると秋夫氏の説明があった。

秋夫氏は東京消防庁職員を退職後、横浜から容子夫人と伊東市へ移り住み、秋夫氏は健康のためゴルフ場を週3回ほど手伝っている。ご夫妻には嫁いだ娘さん二人がいる。

藤村さん、マウロ君は秋夫氏宅に宿泊。私達夫婦は秋夫氏住宅のすぐ裏にある「ペンション・モルゲン」に案内された。このペンションは愛犬と泊まれ、今日本ではこのようなペンションが流行っていると言う。

オーナー（北村さん）は有名ホテルなどで中華やフランス料理を修行、この地にペンションを開業して3年目。北村さんは長崎出身、奥さんは北海道出身であった。

夕刻、温泉を浴びてから藤村ご夫妻による私達4名の歓迎夕食会がペンションで開かれた。



右から容子さん、秋夫さんと藤村さん

11日（火） 朝から買い物のため東京で一日を過ごす。

12日（水） 「三協技研会長を訪問」秋夫氏の案内で下田市の三原正人会長の別荘を訪問。

三協技研は企業などに人材を世話する所謂「人材派遣会社」で常時5000人の人材を企業に派遣している。藤村副会長は日本が高度成長時代に人材不足を補うため、コロンビアで初めての人材会社を立ち上げブラジルから日本への就労者を三協技研へ派遣した協力者で、日本訪問の折には昔のよしみで三原氏を訪ねている。（同社には県人やその子弟も大勢世話になっている）

三原氏には県人會も何かとお世話になっている事から県人會50周年・移民100周年への出席をお願いした。昼食後近くの弓ガ浜へ案内された。

浜辺では夏本番に備え観光客などを迎える「海の家」などの準備が進んでいた。三原氏も手伝っているとの事。三原氏から図書多数の寄贈を頂く。



三原夫妻

「お別れ会」夕刻から明日帰国する私達夫婦、マウロ君のため秋夫夫妻による送別会がペンションで行われた。宴はカラオケまで用意され楽しく過ごした。

神奈川県藤沢在の岩船信一氏（賛助会員）から電話があったと容子夫人。氏へ電話を入れるが中々通じない。ニッケイ新聞編集局長で岩船氏の娘婿の深沢氏へ番号の確認すると地方局番が違っていった。岩船氏は明日成田で逢う約束をした。

※ 岩船氏は宮古出身で日本の各港湾税務官を長く務められた。04年シルバー移住を目的に来伯され永住権まで取得された方である。半年の滞在中県人會へ参加された事から懐かしい人でもある。

明日は帰国組を秋夫氏と藤村さんで成田まで送ってくれるとの事で早めに散会。ペンションの北村夫妻とブラジル事情など遅くまで話しあう。オーナーは是非ブラジル行きの準備を今から進めたいと話していた。

13日（木） 朝7時の出発を前にペンション前で記念写真（この写真はペンション・モルゲンのホームページ《<http://www.relaxado.com.morgen>》にブラジルからのお客さまが宿泊と掲載された）



容子夫人やペンションの夫妻に別れを告げ藤村さんも乗り込み成田向け出発。横浜のベイブリッジを左手に東京湾トンネル道を経て千葉県に。成田へのインターチェンジで早めの昼食。

空港で宅急便を受け取り岩船氏を探すが見つからずJALカウンターでチェックインを済ます。

午後2時前に岩船氏と再会、しばらく振りでブラジルでの懐かしい思い出を語りあった。元気そうであったが持病があるとの事。地元産のお土産を頂く。

岩手県東京事務所今年転勤になった工藤明雄氏（05年稲葉課長と来伯）からお土産をと、アルファインテル旅行社の岡さんが持参。

JAL便はアメリカン航空との提携便でニューヨークまで満席状態。サンパウロへは空席が目立った。

14日（金） 午前8時前グアルーリョス空港へ無事着陸。岩手の皆さんに県人會50周年への来伯要請の任を果たし、また様々な人々との「ふれあい」でブラジルに対する関心を強く感じ、今後も県人會活動を通して両国の国際親善交流への「礎」になるよう尽くす事が県人會の役目だと強く感じた訪問の旅であった。

皆さんありがとう！ おわり

☆ 文中、記憶違い或いは人名の活字違い、記載漏れがあったかも知れません。ご容赦を

Dreams Come True

ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界10カ国。
二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。

南部美人を飲むサンパウロの店
●Jun Sakamoto TEL. 3088-6019
●A-1 TEL. 3145-1833



南部美人

株式会社南部美人
岩手県二戸市福岡字上町13
TEL.0195-23-3133
FAX.0195-23-4713
E-mail:sake@nanbubijin.co.jp
ホームページ毎日更新
<http://www.nanbubijin.co.jp>
●お酒は20歳になってから



野田村

(www.vill.noda, iwate.jp より)



野田村は、岩手県の北東部、北上山地の沿岸部にあり西部は久慈市、南部は普代村と岩泉町に接し、東部は太平洋に面する。総面積は80キロ平方、人口5117人。

野田村には「べこ（牛）の道」と云われる狭い山道が残っている。村の海岸では古くから製塩が行われ、北上山地を越え栗石や盛岡近在に塩を牛の背に積んで運ばれ、米、粟、そば、豆などの穀物と交換されていた。「塩の道」とも云われていた。また江戸時代初期には砂鉄の産地でもあった。

観光は、玉川海岸のえぼし岩、野田港に突き出した高さ50mの三紀の断崖「大唐の倉」西行屋敷跡、塩べこ起道点、淡水魚の宝庫安家川、十府ヶ浦海岸などがあります。祭りは、上組山車、樽みこし、流し踊り、豪華絢爛時代絵巻山車がある。

